

「中国と日本が少しでも近くなるように」

株式会社 大富 代表取締役社長 張麗玲
フジTV 放映「小さな留学生」 制作者

宮下 これから張麗玲さんをご紹介しますと思います。張麗玲さんのビデオを撮られたときの模様をご覧ください。知らない方もいらっしゃるかと思いますので、最初の10分ほどビデオを流させていただきます。

—— ビデオ放映 ——

(ビデオの内容のナレーション)

テレビ放送されたばかりのドキュメンタリー番組を扱った本が出版され、今中国で飛ぶように売れている。中国最大の書店さん、あふれかえる騒然とした人だかり、殺到するマスコミ。この日そのドキュメンタリー番組の制作者が来ていた。出版を記念するサイン会。番組に心を響かせた若者たちが集まる。取材攻めにあっている人。張麗玲さん。彼女が日本で制作した10本のドキュメンタリー番組が隣の大国中国を大きく揺り動かした。そのドキュメンタリー番組の企画者であり監督、今年32歳。張麗玲さんがつくったのは日本を舞台に自主制作の形で作成した10本のシリーズドキュメンタリー。「これ格好いい、いいねえ」4年間の歳月をかけて今この日本で懸命に生きている中国人留学生の姿を克明に記録し続けた。彼女自身も中国から日本へやってきたかつての留学生。番組を作ったことなどまったくなかった。この冬中国のテレビ局でこの番組が放送されると中国全土に空前の社会現象が沸き起こった。新聞も連日この番組を破格な扱いで大きく掲載。ドキュメンタリー番組がこのようなかたちで話題をさらったのは中国のテレビ史上初めてのことだという。張麗玲さんの思い、日本と中国が少しでも近い国になってほしい。

「私の名前、張素です。初めまして。よろしく申し上げます。」「新宿だったら山手線、切符ありますか？わからない？」(駅でのやりとり) 中国人のなかにあるこれまでの日本のイメージを根本から塗り替えた。(中国語、駅の情景)「撮影させてくれている人たちも大変感謝ですけれど、皆さんにも本当に頭下げる、感謝しています。すごくうれしいです。本当にやってよかったなと思います。」

日本で生きている1人の若者が国境を越えて奇跡を起こした。話は今から4年半前にさかのぼる。フジテレビがお台場に移転する前まだ新宿の河田町にあった頃、1995年12月8日の夜1人の在日中国人女性が企画制作部に突然現れた。名前は張麗玲さんと言った。そしていきなり「カメラを貸してください」初対面での出会いがしらだった。日本で暮らしている中国人留学生の姿を記録し、中国本土のテレビ局で放送したい。それも1本ではなく20回シリーズを目指して作りたいと、このとき28歳。ドキュメンタリーをつくった経験はまったくないが、撮影用のカメラさえ

あればきっとつくれるはずだと思っている。話の内容は突拍子もなく常識を外れていた。しかしその中に何か不思議な意志の強さと志の高さがあった。フジテレビのプロデューサーは直感で決断した。このまったくの素人が企画したドキュメンタリー番組の制作をフォローすること。それと同時に、これもまったくの直感でこのときとっさにカメラを回した。このあともずっとカメラを回し続けた。そしてこのときの情景が4年半後に国境を越えて奇跡を起こしていくすべての始まりとなった。

1989年張麗玲さんは21歳のとき「あいうえお」もわからないまま自費留学生としてたった1人で日本へやってきた。成田空港には中国から到着した人がたくさんいた。大きな荷物、興奮と不安の入り混じった表情。ここから始まる彼らの日本での暮らしぶりは中国本土にほとんど伝わっていない。この光景、歴史の貴重な一場面のように感じた。彼らの姿を記録しておきたい、その記録をいつか中国本土の人々に伝えたい、このときの思いが消えなかった。それから6年後東京学芸大学大学院を卒業。

フジテレビへやってきたこの年の4月新入社員として大手総合商社大倉商事に入社していた。所属は食糧部。社会人になっても、あのとき成田空港で目にした光景を忘れることはなかった。ロケはフジテレビを訪ねてきた数日後1995年12月末からスタート。大倉商事から初めてもらった冬のボーナスでデジタルビデオカメラを買った。そして番組をつくっていくためにかかるお金は中国にいる親戚や友人たちから借りた。一生をかけて働いて返済するという覚悟の借金だった。

宮下 ビデオはこれからずっと続くわけですが、ここでご本人をご紹介させていただきます。張さんどうぞ壇上にお上がり下さい。お手元に略歴が書いてあると思いますが、10代の頃中国の北京で大変素晴らしい女優として活躍をされていましたが、あるときご自身で留学したいということで日本に来られ、学芸大学を卒業されてから今ありましたようなかたちで大倉商事に入られて。この大倉商事はあとで残念ながら倒産してしましますが、そのときにフジテレビに駆け込んでカメラを借りて撮っていったシリーズが、これが中国における若者の日本に対する感情を変えたというくらい非常に優しい日本人もいるのだというような影響をもたらしました。私はこれを見ておりまして、やはり張麗玲さんには何か大きな定めをもって生まれてそれを果たしていくという強い意志をもたれた方だと感じました。現在は中国中央電視台という中国のテレビの日本の放映権を持っています「大富」という、大倉商事の「大」とフジテレビの「富」をあわせた会社の社長をされています。ではどうぞ、よろしく申し上げます。

張 ありがとうございます、ビデオを見ていただきまして。ご紹介いただいた張麗玲と申します。本日は本当に皆さんとこういう形でお会いすることができ、心からうれしく思います。最近本業の仕事の放送のほうがとても忙しくて、こういった晴れがましい席で講演する機会が非常に少なくなりましたが、本日は早稲田大学ということで、私は実は早稲田大学に対する特別な思いがあります。話をすると非常に恥ずかしいことですが、中国にいた頃、日本に来る前、日本の

大学は早稲田大学以外に知らなかったのです。来る前に友だちから「日本に行ったらどこの大学に入るの?」と言われたときに、私は早稲田だろうと。それで日本に来て初めて友だちから教えてもらい、早稲田大学は実は私立大学で学費が高いと知り、それで最終的に違う選択になってしまいました。

また、本日は若い方たちがたくさんいらっしゃると思うので、これから日本の将来を担う方たちです。是非出席させていただきたいと思い、本当に気持ちと心をいっぱい込めてまいりました。あまりにも大切かなと思うとやはり硬くなってしまい、原稿まで用意してしまいました。今までいろいろな講演のチャンスや経験はありましたが、原稿まで用意したのは今日が初めてです。本当につまらないと思いましたが是非中断してください。他の講師の方は、今日は経済や政治関係のお話をされると伺いましたので、私は主に民間レベルの日中関係や、メディアが日中関係に与える影響などについてお話をさせていただきたいと思います。

宣伝に思われると困りますが、私が今どんな仕事をしているか紹介させていただきます。皆さん多分ご存知と思いますが、私たちはスカイパーフェクTV!というCS衛星放送で「CCTV大富」と「TVB大富」という2つのチャンネルを通じて中国の番組を放送しています。「CCTV大富」のCCTVというのはわかりやすく言えば、ご存知の方はたくさんいらっしゃるかもしれませんが、イコール日本のNHKというテレビ局です。最近地上波とかで中国のニュースが流れていますが、それはほとんどCCTVからということを入念に入れていただければいいと思います。もしこれからそういったニュースとかを見かけた場合は、大富も同じようなものを放送しているんだなと思わせていただければうれしいです。

もう1つのチャンネルの「TVB大富」というのは香港、アジア圏で圧倒的に人気の高い、主に娯楽を中心にした番組です。こちらは現在、韓流の次は華流がくるという華流ですが、華流ブームを引っぱっていくたくさんの日本人の方々がこのチャンネルを見てくださいます。支えになっていただいています。今、台湾のアイドルグループのF4とかなどの人気が出て、華流という言葉がブームになりつつあります。でも韓流や華流という言葉が流行するずっと以前から、日本にはアンディ・ラウやトニー・レオンなどの香港のタレントさんの熱狂的なファンがたくさんいました。こういった方たちは、中国語がまったく分からないにもかかわらずこのチャンネルの番組とかをずっと見てくださっています。こういった方たちは韓流ブームを支える奥様たちとはほぼ同年代の方たちですので、これにF4などのアイドルを支える若いファンの皆さんの応援が加われば華流ブームはいつかきつとくるだろうと、今皆に言われています。是非1日も早く華流ブームがくるように、私どもも中国のことを好きになってくれる方が増えてくださればいいなと思っています。

日中関係については現在様々な面で多くの問題を抱えていると言われてはいますが、同じアジアの人、同じ世界に生きているのだから心はきっと同じだと私は常に信じています。ならばどうして日中関係は今のよう、思うようにいかないのだろうか私によくいろいろな人から聞かれます。中国に商売に行くと非常にうまくいかなくて失敗して帰ってきた人とか、番組を見て中国を

好きになって、中国に行って迷ったりした人から、手紙や電話とかでよく聞かれます。私もよく考えます。日本に16年以上もいますので、16年以上もいる私がなんとかお答えしようとする考えさせられます。私が感じたことを少し申しますと、これはお互いの本当の姿を知るための相互の情報不足が大きな原因ではないかと思います。異なる文化をもつ人々がお互いに理解しあい、様々な摩擦に対して自分なりの冷静な判断が下せるようになるには、きちんとした情報の裏づけと深い理解が必要だと思います。私たちが大富という会社を立ち上げたのも、中国の生の情報を日本に伝えることによって、こういった現実を少しでも改善する力になれたらいいなと思ったからです。

私は以前日本に来る前、やはり自分の経験から言いますと、日本に来る前は、中国で生まれ中国で育ちましたので、中国のことを当然わかっているつもりで日本にきました。それで日本の方から中国のことはどうですか、知っていますかと聞かれ、私は笑いました。中国人ですから中国のことがわからないのはおかしいでしょうと強く答えました。でも日本に来てから、長くいればいるほど気がついたのは、自分は実は中国のことをあまり知らなかったなど。本当に日本に長くいればいるほど、中国のことは部分的ではなく全面的に見えてきます。いいところも悪いところも考えさせられることはたくさんありました。同じように日本人も中国のことをあまり知らないと思います。

例えば私がタクシーに乗ったりすると、タクシーの運転手さんは最初は日本人と思われて、気がついたら「中国の人？」と、「はいそうです」と言うと、ああ出稼ぎに来たんだと思う方がいるんですね。それで「お金稼げましたか？」と。昔はそういうことを聞くだけですぐ頭にきてタクシーを降りたこともあります。最近はそういうことを言われると、ニコッと笑って「タクシーの運転手さんも大変ですね。夜中まで仕事をしていて、お金稼げましたか？」と。向こうは「お金が稼げていたら夜中なんか走らないよ」と。「だったら、外国人が日本に来てなぜすぐお金をいっぱい稼げるんですか」と聞くと。「そう言われると深く考えたことはないな、やはり大変ですよ」と。

例えば2年前ですが京都、長崎とか地方の講演に行ったときに、ある日本の方から質問をされて「中国は今テレビがありますか」と。つい先週には、日本の金融業界の方が、私の会社に来て雑談の中で「張さん、中国は共産党員以外はテレビを持っていますか」と聞かれました。共産党員はやはり6600万もいらっしゃいますからそれ以外の方はいい生活をしているかどうか分からないと。本当に中国のことは分からないなと思います。ですから中国の中央テレビの番組を生でガンガン伝えて、中国のことをよく分かっていたいただければ、日本のことも中国のことも、日本という国のことも本当に改めて考えることができると信じて、大富の事業を今まで続けて頑張らせていただきました。

日本人と中国人は外見は似ていますが、考え方や、習慣とかはまったく異なります。環境も言葉も違うわけですので違って当然です。ただ似ているという先入観とかそういうことが心にありますので、相違点に気づいた時の失望感や意外な気持ちが倍増してしまうと思いま

す。違うことを異文化として認め、違っていることの素晴らしさをお互いが認め合い、尊重しあえるような日を実現させるためには、メディアの役割が非常に大切になってきます。そのためにはメディアがその役割をきちんと認識し、双方の正しい情報を伝えなければならないのです。

私自身の話を申しますと、大変恥ずかしいのですが、先ほどご覧になっていただいた「私たちの留学生活～日本での日々～」というドキュメンタリーシリーズが、最初は中国で宣伝すらされずに放送されました。ところが口コミで評判が広がり、次々と中国全土のテレビ局で放送されていきました。このシリーズは日本で一生懸命生きている中国人留学生たちと、彼らを取り巻く暖かい日本人の姿を中心に描いたものですので、先ほども皆さんご覧になっていただいたように、残酷な日本人という従来の日本人に対する見方や対日感情に大きな変化をもたらしたと高い評価をいただいております。

その後、シリーズのうち「小さな留学生」、「若者たち」、「私の太陽」という3つの作品がフジテレビのゴールデンタイムで放送されました。日本で放送することによって、多くの人々が日本で一生懸命生きている中国人の暮らしを初めて目にし、中国への見方が一変したとおっしゃってくださいました。学生さんで留学生の姿を間近で見ている人たちは別として、一般的には中国人と言えば出稼ぎ、不法就労、マフィアとか犯罪などのマイナスイメージを持っていらっしゃる方が非常に多いですので、日本の方にすれば非常にいい意味で衝撃だったと思います。この番組を放送して、実は私も日本人がこれほど中国のこと、中国人留学生のことを知らないというのを初めて知りました。もちろん私の周りの日本人は優しい人が多くて、多分日本人は皆中国人の留学生は日本で一生懸命がんばっている人が多いと知っていると思っていたので、この番組を放送してから初めてたくさんの人は何も知らなかったのだということを知りました。例えば私はたくさんの人に手紙をもらいましたが、その中で大勢の人は中国人留学生は出稼ぎと犯罪のために日本に来るのだと思っていた。番組を見て初めてそんな精神をもって一生懸命生きている中国人がいることを知った、なぜもっと早く教えてくれなかったんだという手紙もありました。警察の友達もいまして、警察の中も結構の方が中国人は犯罪にくると思っている人がいるので番組を強制的に見てもらいましたと。

3つの作品のうち「小さな留学生」は実はドキュメンタリーとしては異例の瞬間最高視聴率24.7%を記録しました。今でも街でお会いする人に声をかけられますが、特に奥様たちに「今、張素ちゃんはどうしていますか」とか「続編はなぜ撮らないのですか」とかよく質問をいただいています。張素ちゃんも来日した当初、日本は中国を侵略した、お父さんが日本にいなかったら絶対に日本には来なかった、中国のためにも日本人に負けずに頑張ると強く思っていたようでした。ところが2年経って中国に戻った時には友だちから日本で幹部になれたかと聞かれた時に、張素ちゃんは「日本って誰でも幹部になれるの、成績がよくてもよくなくても、なりたかったらなるのよ」と答えるまで成長していました。また友だちから日本に行ってよかったかと聞かれた時「よかったよ、友だちもたくさんできたし」と答えていました。同様に中国という国をまったく知らない日本の子どもたちも中国という国は張素ちゃんの国なんだと、とっても近く親しく

感じるに違いありません。私はどんな国でもやはりその国に実際に住んでみて初めてその国の良さ、素晴らしさがわかってくるのだと思います。人々の中に入りこんで初めてその国の美しさがわかってくると思います。張素ちゃんのことは1つの例ですが、どんなに最初の思いが違っていても価値観と観念が違っていても、心は必ずつながっていけると思います。

あと留学生の番組のことでもう1つ例をあげますと、つまり中国人と日本人の価値観とか考え方が違うということで、1つの例になるのではないかと思いますので申します。例えば、この番組を放送して中国の方も日本の方もお会いする人には必ず「張さん大変感動しました」と言われます。その部分は両方全部同じです。ただ中国の方は、そのあとに必ずついてくるのが「張さん、あなたが日本で撮影している中国人の中で、成功している人はいないの？」一方まったく反対に、日本人の方々には会うたびに「張さん、あなたが撮っている留学生は全部成功している人ばかりなの？」と聞かれます。つまりそういう成功という意味1つとっても中国と日本の考え方はまったく違います。そういうことをまた改めて大変認識させられました。同じ感動と言っているにもかかわらず、価値観はまったく異なります。どちらのほうが良い判断なのかということではなく、大切なのはやはりそれぞれの異なる価値観を尊重すべきだと思います。ですから異文化にぶつかったときに、まず相手を知ることが大切だと思います。知ることがいかに大切かということを認識しないといけないと思います。相手を知らないのに理解しようとしてもやはり無理があります。知ることによって初めて理解が生まれてくると思います。

私はこのドキュメンタリーによって、国や政治家がどんなに言葉を尽くしても超えられない壁もメディアの力によって超えることができると実感しました。これもまたメディアが果たす役割がいかに重要であるかを立証した1つの例ではないかと思っています。時代の進歩に伴い、情報伝達手段も益々進んでいます。外国に行かなくてもまるで現地にいるように様々な情報もたらされます。これはメディアが果たす素晴らしい役割だと思います。けれども、同時に、見る側はメディアから発信されるものしか知ることができないというマイナス面も併せ持っています。視聴者や読者は現場にいませんので、メディアから受け取ったものをそのままそれが事実であるということを信じてしまいがちです。いかに公平に客観性をもって事実を伝えるかは、すべてメディアという発信側にかかっています。

最近の日中関係を見ますと、日本のメディアは相変わらず中国のマイナス面ばかりを大きく取り上げて放送することが多いようです。いくら交通が発達して世界が狭くなったといっても、普通に生活している日本人にとっては中国は紛れもなく外国であり、異文化です。連日反日抗議デモをしている中国の映像ばかりを流せば、心のなかにしこりが残り、何かをきっかけに反中国への気持ちが芽生えても不思議ではありません。2002年の日中国交正常化30周年記念で一時期盛り上がっていたかのように見えた日中友好ブームのムードは、靖国問題や歴史教科書問題で徐々に冷え込み、昨年のアジアカップ決勝戦にまつわる一連の報道で一挙に冷え込んでしまいました。今もまだ反日抗議デモなど両国の関係をさらに冷え込ませるような事件がたて続けに起こっています。今年の春の反日抗議デモの際には、日本のマスコミはまるで上海や北京の至るところで反

日デモが行われているような報道をしていました。しかし事實は、そのデモは決して中国全体のことはありませんでした。それにもかかわらず、日本の多くの人々は中国の全土で反日デモが行われているような印象をもったのではないかと思います。一方中国のメディアの方はそのデモの事實をほとんど報道していませんでした。上海や北京の人々でさえデモが行われていることさえ知らない人もたくさんいました。このように1つのできごとをとってみても、中国の人の受け方と日本人のとり受け方は違ってしまいます。メディアというものの役割の難しさともいえます。

実は私も4月にちょうど中国に出張に行きましたが日本人のたくさんの友だちから電話がかかってきて、「張さんは日本人に似ているから中国に行かないほうがいい」と言われました。どうしてと言ったら「すごく大変、知らないの?」と。どう大変かと聞いたら日本語をしゃべったらすぐビール瓶が飛んで頭に来るからと。そこまで皆はやはり恐れていました。私も30歳くらいの女性のお医者さんの友だちがいて、4月は一緒に北京へ旅行に行くつもりでしたが、やはりとても怖がっていて、私がいくら説明して、それほどではないと言っても信じてくれなくて、キャンセルしました。やはりメディアという影響力は非常に大きいということです。日本だけでなく中国のほうにも言えることですが、日中はわりとこういった事件が起きるたびにマスコミが過剰反応をします。センセーショナルなタイトルとかをつけて刺激的な場面ばかりを報道します。このような報道はいたずらに反中感情をあおり日中関係を悪化させるだけです。マスコミの影響力は本当に大きいですから毎日同じ情報を目にし、耳にしていれば自然とその情報はすり込まれていきます。マスコミの報道以外の情報をもたない人たちにとっては、こういったマイナスのイメージは固定概念や先入観として大きな影響をもつようになるでしょう。

一方誰も予想しなかった韓流ブームは、「冬のソナタ」というドラマとペ・ヨンジュンさんとかチェ・ジウというとても美しい俳優さんたちの人気をきっかけに日本中に大旋風を巻き起こしました。彼らが来日するたびにテレビや雑誌、新聞など、日本のマスコミ中が大騒ぎをします。日本のファンに向かって、親日的で優しくさわやかな印象を残していく韓国の俳優たちの映像は、近くて遠い国「韓国」というイメージを確実に変えてしまいました。このブームによって、日本の方々の気持ちが韓国にグッと近づいただけでなく、日韓関係も急速に穏やかなムードに向かっていきました。また、日本側メディアの韓国に対する報道の仕方や、ニュアンスも少しずつ変わってきたような気がします。また、たくさんの方々が韓国に興味をもち、韓国に旅行して実際に「韓国」を体験したり、ドラマや情報番組から韓国の様々な情報を手にしたりしたはずで、同時に韓国が大好きな日本人から口コミで伝わる生の情報は、韓国について何も知らない日本の方々にも、きっとプラスのイメージを与えたに違いありません。こういった韓国ブームは、日本だけでなく韓国の人々もきっと大きな影響を与えたはずで、自分たちの国にこれほど興味をもってくれ、好きだと言ってくれているのだから決して嫌な気持ちはしないと私は思います。これは、1つのメディアがもたらした功績であり、改めてメディアの担う責任と役割を考えさせられる大きな出来事でした。

最近、何回も空港とか街を歩いていて若い学生さんに声をかけられます。「張さん」と後ろから追いかけてきて、「私たちは張さんの番組がきっかけで中国に興味をもちました。それで中国に留学して今帰ってきました」と。私は毎回そう聞かされたときにうれしいということよりも怖いぐらいの責任を感じます。私に文句でも言いに来たのではないか、責任を取らなくてとはと、本当に強く責任を感じます。ただ私たちの番組をきっかけに、もし日中両国の留学生の若い人たちが、偏見にとらわれることなく見識と理解を深め、日中友好の架け橋となってその力を発揮していただければ、メディアに関わっている人間として、これ以上の光栄なことはないと思います。日中両国の関係を改善しなければならないと、政府も国民も皆同じ思いでいます。しかし、お互いのマイナスのイメージを植えつけることにマスコミが知らず知らずのうちに加担しているということもやはり事実です。これからはマスコミに関わる人間たちがきちんとこういったことを自覚しなければならないと思います。

先ごろ日中両国のマスコミや民間組織などが、共同で日中関係についてアンケート調査を実施しました。これによると、日本の印象を「あまりよくない」と回答した中国人は63%、反対に中国に対して「あまりよくない」という印象の日本の方は38%という結果が出ています。例えばこういった記事を目にしたときに、冷静に判断できるかできないか、例えば中国はやはり感じが悪いと思うかどうかは、その人個人がもっている情報量によってだいぶ違ってくると思います。アンケートではこういった結果が出ているけれども、親日的な人もたくさんいますし、中国もたくさん素敵なところもありますし、自分は中国が好きだと言ってくださる、そしてそのように周りの方に説明してくださる日本人の方が1人でも増えるように、私たち大富も中国の素晴らしい番組と情報を発信していきたいと思っています。

今後、益々加速する経済の発展と巨大マーケットにより、日本にとって中国の存在は無視できないほど大きくなっていくでしょう。好き嫌いに関わらず、日本と中国はお互いきちんと向き合っていかななくてはならないと思います。日本と中国のすれ違いを少しでも減らして、両国が少しでも近くなるために、私たちメディアは担うべき役割を改めて考え直す時期にきているのではないかと考えています。

また日本の皆さんも、特に若い皆さんには、自分の国である日本という国をよく知った上で、日本の国際的な位置づけを理解し、グローバルな知識を身につけ、他の国々への理解を深め、国際人として活躍していただきたいと思っています。日本と中国がお互い信頼しあい理解しあえるようになれば、アジア、そして世界の平和と人類の幸福に貢献することにつながりますので、中国と日本が本当に少しでも近くなるように努力をし続けることが、私たち若い世代の使命であり責任でもあります。そして何よりも待っているのではなく、ひとりひとりが直ちに行動にうつすべきだと思います。私たち1人ひとりの努力こそが新しい明るい将来を生み出すのです。そして中国の情報を知りたいときは是非いつでも大富に来て、あるいは思い出していただければうれしく思います。日本にいる日本人よりは中国のことを知っている私たち、本当に中国にいる人よりは日本のことを知っている私たちは、これからその真ん中に立つ意味と役割を改めて認識して、理解

して頑張っていないといけないと思います。日中両国の人々がお互いに素晴らしさを認め合い、尊重しあえる日が、1日も早く来るように皆さんの応援のもとでこれからもたゆまぬ努力を続けていきたいと思っています。

講演は45分と決められていますが、私はせっかく皆さんと出会うことができましたので、できれば皆さんと交流したいと思っています。少し講演の時間を減らさせていただき、皆さんと交流の場を設けていただきたいと思います。あまり政治的な話はわかりませんが、ひとりひとり人間が心でつながっていけるように、皆さんと話し合いながら一緒に頑張っていきたいと思っていますので、ご質問とか交流したい方がいましたら、是非どうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

宮下 ありがとうございました。今お話にありましたように早稲田大学には非常に多くの留学生が学んでおります。その数が1,500人くらいでしょうか。そのうちの500人が中国からの留学生ということで、私どもも教えておりますが、大変よくできる留学生たちがここで学んでおられます。先ほど留学生がいろいろな犯罪を起こすというお話がありましたが、やはり日本あるいは東京というところで生活するのは大変な費用がかかるわけで、今10万人以上の留学生が日本にきているという中には、当然経済的な負担に耐えられなくてそういう道になってしまうような人も中にはいるのではないかと思います。ですが多くの方は非常にまじめにやられていることは知っていただければと思います。

先のビデオの中にありました最初のかわいらしい女の子の張素さんは今高校を卒業されてもう1度日本に留学したいということを言われていると聞いています。2番目の女性の方はあのあと千葉大の工学部に入っておられます。3番目の男性は明治大学に行かれたと。本当に皆アルバイトをしながら大変な努力をしてやられています。本日もこの中には中国からの留学生なども混じっておられると思います。何かこの機会に質問したいという方がおられましたらご遠慮なくどうぞ手をあげてください。

趙 一橋大学大学院の趙薇です。私も張さんの後輩と言えると思います。中国人の留学生です。今は留学にきて丸1年になりました。留学生生活は大変なところはもちろんたくさんありますが今とても楽しいです。本当に楽しいです。だから楽しいところはたくさんありますからこんなにたくさん留学生がどんどん来ているのではないのでしょうか。本当に私たち中国人にとっても日本のイメージは中国にいたときは多分よくないところが多いと思います。来てからは大変なこともあります、楽しいところもありますので、皆頑張っているのではないかと考えています。もちろんそれは張さんの番組のおかげではないかとも考えています。

でも頑張っているところで特に最近日中関係はどんどん悪くなってきている感じも強く感じています。日中関係が悪いというのが国と国の間のことだけではなく、本当に個人私たち留学生まで強く影響があると思います。例えば私の場合日本に留学に来たことが、友だちと家族まで反対

されたこともあります。本当に理解してくれません。それは私はやはり中国でも日本について知らない人が多いのではないかと思います。今までのイメージはやはり戦争の日本にとどまっているところが多いと思います。そこでメディアとかの役割がとても大事ではないかと思います。私は去年の夏に来たので、昨年までは中国国内のメディアは日本についての番組は本当に少ないです。あるとしても小泉さんの靖国神社参拝とか速報くらいです。大きな地震が日本にあったとか、そういうニュースくらいにとどまっています。なので、普通の人は日本について知る機会がないです。張さんはメディアのほうでは先輩と言えますが日中についての番組を作っている方が少ないと思います。ここまでは中国のことを日本に紹介する中国人留学生の番組をつくって日本の方に紹介するとかそういう番組が多かったのではないかと思います。これからは日本のことを中国に紹介する、政治とか大きな面ではなく日本の普通の方々の生活とか細かいところまで日本は一体どういう国か、日本人は一体どういう人たちか、そこまで含めて中国人に紹介していく番組をつくる予定はあるでしょうか。多分私たち中国国内メディアについて制限もあるかもしれませんが、もしそういう予定がありましたら少し紹介してもらいたいと思います。

張 ご質問ありがとうございます。私は最近人に会ったとき、中国は13億人もいて1人のヨンさまもつukれないのかとよく聞かれます。日本もたくさん視聴率の高い青春ドラマとか、昔だと「東京ラブストーリー」とか中国で非常に人気がありました。もっとさかのぼると「おしん」、山口百恵のシリーズなどが、1つの時代の人たちに影響していたと思いますが。その後「東京ラブストーリー」以降、本当に日本の作品は、中国では少ないです。海賊版は別にして、本当に少ないです。なぜかという原因もたくさんあります。最近私もやってみましたが、日本の素晴らしい番組を、私が撮るといふよりも、すでに撮ったものを中国に紹介していきたいと思ったら、もちろん中国の審査というものがありますが、まず日本の著作権処理という問題が非常にややこしくて難しいです。海外にもっていく場合は俳優さんはまた経済的な問題が関わってくるし本当に複雑な手続が要ります。今でも頑張っていますが1つも成功していません。それで、やはり私たちが放送以外にまた作っていかうかなと思っています。実は今年、この留学生シリーズですが、また1つの番組を作っていますので、この番組は10年間にわたって撮った番組ですので、また中国人留学生の話ですが、来年くらいになったら中国と日本両方で放送できるような番組を作っていけたらいいなと思います。今がんばっています、応援してください。

姜 早稲田大学人間科学研究科の院生1年、姜鳴と申します。きょうのお話を伺いとても勉強になりました、ありがとうございます。私は今、張社長は自分のメディア関係の会社を持って、今の手元の資源とか「小さな留学生」ドキュメンタリーができたときよりも手元の資源とかがとても豊かですが、なぜ小さな留学生の続編を作ってくれないのか教えてください。

張 1つはやはり、今、物理的に時間がないということと、もちろん番組を制作するということ

と大富の経営趣旨は同じですが、どちらも大切だと思って頑張らせていただいていますので、物理的に時間がないことと、ものをつくっていくのはやはり情熱と、もちろん張素ちゃんは続編とか日本の方から言われていますが、ドキュメンタリー以外のもので、もっと違うかたちで伝える方法はないかと今考えているところです。これからも作っていくつもりです。ただドキュメンタリーという形にしばられないように頑張っていくつもりです。

姜 質問ですが、自らフジテレビに入っていった勇氣に感動しました。今私は張社長にカメラを貸してくださいと聞いたら貸してくれますか。

張 実はフジテレビさんは貸してくれなかったんです。私が個人で持っていたら貸します。なぜならフジテレビでは、テレビ会社は実はカメラとか置いてなかったのです。そういうことも知らなくて私はテレビ局を訪ねたのです。実はフジテレビを訪ねる前にいろいろなテレビ局を回っていました。皆に断られ最終的にフジテレビしか残っていないと言われ、富士フィルムの子会社かなと自分で勝手に思ってフジテレビを訪ねていきました。カメラを貸してくださいと言ったら、カメラは置いていないと。実は全然事情を知らなくて、その横山プロデューサーから違う制作会社を紹介していただき最終的に応援をいただきました。もし個人的に撮影したい場合は、最近自分個人で買ったカメラがありますので貸します。

姜 ありがとうございます。